

統計データ利活用に関する有識者会議 議事要旨

- 1 日 時 平成 28 年 5 月 27 日（金） 13：30～15：30
- 2 場 所 和歌山県民文化会館 6 階特別会議室
- 3 出席者
構成員：稲田義久 甲南大学副学長、大井達雄 和歌山大学観光学部教授、鬼塚真 大阪大学大学院情報科学研究科教授、下川敏雄 和歌山県立医科大学臨床研究センター副センター長、地主敏樹 神戸大学大学院経済学研究科・経済学部教授、矢田勝俊 関西大学商学部教授
和歌山県：仁坂吉伸 知事、中内啓文 総務部危機管理局防災企画課情報班長、永尾吉賞 企画部企画政策局調査統計課主任
総務省：古賀総務大臣政務官、會田統計局長、千野統計調査部長
独立行政法人統計センター：栗原統計情報・技術部長
- 4 議 題
 - (1) データの利活用を通じた近畿圏の発展の在り方
 - (2) 近畿圏におけるデータサイエンスの発展と課題
 - (3) その他
- 5 配付資料
 - 資料 1 統計局・(独)統計センター提出資料
 - 資料 2 鬼塚委員（大阪大学大学院情報科学研究科教授）提出資料
 - 資料 3 地主委員（神戸大学大学院経済学研究科・経済学部教授）提出資料
 - 資料 4 稲田委員（甲南大学副学長）提出資料
- 6 議事要旨
古賀総務大臣政務官及び仁坂和歌山県知事より挨拶を行った後、議題について意見交換を行った。
【主な意見】
 - データというのは非常に重要であって、地方の課題の解決に向けても非常に大切なものである。
 - 人材の育成も必要である。地域データからのボトムアップが重要である。
 - データについては、特にマイクロデータのような場合は、プライバシー上、問題が生じることがあるので、プライバシーへの配慮が必要である。その一方で、有用性を残してデータを少しでも使いやすくして欲しい。
 - ビッグデータが普及してきているが、ビッグデータと政府の公式統計データとの棲

み分けをどう考えていくのか。

- データを分析する人材が不足しているのではないか。このような、利活用とデータサイエンスとの結びつきを高める必要がある。
- 特に、地域においては、ヤフーですとか楽天のような大企業を想定したデータサイエンスではなくて、中堅企業を支えるようなデータサイエンス、これができるような人材の育成が必要である。それによって地域の発展にもつながっていくのではないか。
- 統計の利活用とデータサイエンスは車の両輪で、双方相まって発展していくことが大切である。

以 上